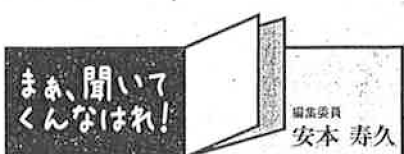


もう2年近く、朝刊連載「楠木正成考」を担当し、大楠公、小楠公と並び称される正成・正行父子のことは知り尽くしているつもりだった。

だから「楠木正行の恋」と題された絵本の原案を見た時には驚いた。11歳から父の遺言で朝敵を討つことのみを考え、23歳で室町幕府の大軍と戦って敗死した正行に、ロマンスがあったというのだから当然だろう。

絵本を作成しているのは、正行が眠る大阪府四條畷市にキャンパスがある大阪電気通信大のデジタルゲーム学科3年生の19人である。社会プ



## 楠木正行知られざる恋

ロジエクト実習という授業で、外部からオフアワーを受けて「商品」に足るものをつくるという、まさに実学に挑戦する19人は、正行の顕彰を進める市民団体「四條畷楠正行の会」から、子供たちに正行の生涯をわかってもらえるものを、というオフアワーを受けたのだ。

ゲームではなく絵本にしたのは、指導教員の木子香講師の考えだ。絵

をつくっている。テーマは学び、大志、友、情、最期、そして恋だ。学びや大志は、父の正成に桜井の訣別で託された使命を果たそうとする正

本づくりは、人物の容貌や衣装、性格などをどうするか考えて描く点はゲームのキャラクターづくりと変わらない。紙面が限られる中で場面の展開、絵を描く視点などを考えることはゲーム以上に凝縮の技が求められる。その難しい絵本をつくれれば、ゲームづくりのスキルは必ずアップ

するという考えである。19人は、6チームに分かれて絵本

の喧嘩と仲直りを描いている。恋は、南朝に使える女官、弁内侍と正行の淡い恋をテーマにしている。義と無私を貫いたと考えられがちな正

行がテーマで、その姿は『太平記』にも書かれている。情や最期は、おぼれる敵兵を助けた住吉合戦や、高師直と激戦した四條畷合戦という有名な故事を扱っている。しかし、友や恋は、地元だけに残る伝承を基にしている、史料的な価値もある絵本になる。

友は、正行が四條畷合戦とともに戦った従兄弟、和田賢秀との幼い頃

の別々の一面が見られ、正行の短い人生にも人間らしい喜びがあったとホッとする内容である。

作成にあたって19人は、正成・正行が学んだ観心寺（河内長野市）や敵兵を助けた渡辺橋跡（大阪市中央区）、正行と賢秀の墓所なども訪ねて歴史を学んだ。その苦労が結果する6冊の絵本は10月、四條畷市立図書館に納品される。